

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化コミュニケーションⅡ		（TCH117）
講義名（コード）	TCH_異文化コミュニケーションⅡ_C		（TCH117C）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	川本 千陽	時間数	30
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	国際力、人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で学生が異なる文化背景を持つ他者への理解力を高めるために、現代の社会課題に対して多様な視点から考えられるようになる。
全体の内容と概要	日本文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、明確に表現し、他者と意見を交換するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化理解① 文化の違いを理解できる	見える文化と見えない文化 敬語①、『おもてなしの日本語』第5課－1
2	異文化理解② 共生するための努力ができる	見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど） 『おもてなしの日本語』第5課－2、敬語②、シャドーイング
3	異文化理解② 共生するための努力ができる	見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚） 『おもてなしの日本語』第5課－まとめ、敬語③、シャドーイング
4	異文化理解③ 日本に関心をもつことができる	見えない文化（異文化の中で働くには） 『おもてなしの日本語』第6課－1、敬語④、シャドーイング
5	異文化理解④ 日本に関心をもつことができる	日本の世界遺産① 日本の文化遺産の概要を知る 『おもてなしの日本語』第6課－2、敬語⑤、シャドーイング
6	異文化理解⑤ 日本に関心をもつことができる(3)	日本の世界遺産② 日本の文化遺産のうち一つを取り上げ、調べ、特徴をまとめる（グループワーク）、『おもてなしの日本語』第6課－まとめ、シャドーイング
7	異文化理解⑥ 日本に関心をもつことができる(4)	日本の世界遺産③ 日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介）
8	日本の現代社会① 日本の現代社会について概要を知る	日本の現代文化について概要を知る 『おもてなしの日本語』第7課－1、シャドーイング
9	日本の現代社会② 日本の現代社会についてまとめる	日本の現代社会が抱える問題について調べて、まとめる 『おもてなしの日本語』第7課－2、シャドーイング
10	日本の現代社会③ 日本の現代文化について紹介する	日本の現代社会が抱える問題について調べて、まとめる→発表する 『おもてなしの日本語』第7課－まとめ、シャドーイング
11	日本の科学技術について① 科学技術について概要を知る	日本の科学技術について概要を知る 『おもてなしの日本語』第8課－1、シャドーイング
12	日本の科学技術について② 科学技術について、意見を交わす	日本の科学技術について調べて、考える→グループワーク 『おもてなしの日本語』第8課－2、シャドーイング
13	日本の科学技術について③ 科学技術について発表する	日本の科学技術について発表する 『おもてなしの日本語』第8課－まとめ、シャドーイング
14	期末試験	
15	期末試験解説・一年を振り返る	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『おもてなしの日本語』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	